

あの提案は
どうなった？

提案実現!! 一步前進!!



いつも全力! 大切な宗像のために。
議員活動報告書

アベマガ 2022年 3月議会号

音楽のあふれる
まちに。
滞りを減らし安全
な暮らしを。
学校給食に有機
農産物を。

意義と課題
職員が技術力を継承し
ていくこと
維持・保全業務を地元
業者へアウトソーシン
グすること
公共施設等の管理に関
する専門部署を設置す
ること

もしもの時に備え
技術力の継承を。

一般質問

もしもの時に備え技術力の継承を。

●職員が技術力を継承していく意義と課題について質問しました

自然災害など、もしもの事態が発生した際には、公共施設や公共インフラの維持・更新に関する知識に精通した技術系職員の担うべき役割は大きく、**研修や実務経験を通じた技術系人材の育成と技術力の継承が大変重要である**と考えている。

課題は、ここ数年、土木や建築などの技術系人材の民間企業の需要が高まっていることから、**本市職員の応募者数自体が低迷している**ので、採用の取組みを強化していきたい。



市長

要望 大卒者の新規採用が難しいのであれば、高卒の人材を採用し長期的なスパンの中で育成していく考え方も必要ではないか。もしも災害が起きたときのために、是非参考にしてほしい。

●維持・保全業務を地元業者へアウトソーシングすることの意義と課題について質問しました

本市には180を超える公共施設があり、19の施設担当課がそれぞれ保守管理や修繕を実施している。現在、築30年を超過している公共施設が半数を超えており、10年後には8割になる見込みで、**建物の老朽化が大きな課題**となってきている。

➡ ユリックスや小・中学校、市庁舎など、大規模な施設の長寿命化については、予防保全とともに、高度で専門的な視点と総合的な判断を行いながら進めていく必要がある。

老朽化が進む公共施設の維持・保全については、国も含めた全自治体の課題でもある。この先、日本全体で人口が減少し、一方で高齢化が進む中、公共施設の維持・保全や更新に係る財源を確保することは、さらに厳しくなると予想されるので、国の考えや先進自治体の取組みなどを参考にしながら、より効果的に公共施設の維持・保全に取り組んでいきたい。

これまで、施設の保守管理や修繕業務などについては、地元事業者に担っていただいている。**地元事業者は、まちづくりの担い手であり、地域経済の循環の一翼を担って**いただいている。このため、地元事業者の事業継承や人材育成、技術力向上についても非常に重要であると考えており、今後も、地元事業者でできることは、可能な限りその役割を担っていただきながら進めたい。

➡ 大規模な施設の長寿命化を進めるための新たな手法も取り入れていく必要があると考えており、民間のノウハウの活用、専門的な知見に基づいた新たな提案などをいただきながら、市民に維持可能な公共施設サービスを将来にわたって提供できるよう努めたい。



部長

●茨城県古河市が導入している包括管理の視察結果

- ①市職員の査定能力が低下する可能性
- ②技術職員に過度の負担がかかる可能性
- ③コスト削減ではなくてコストの増加につながる可能性
- ④予防保全について成果が曖昧となる可能性

左記の4点が懸念されるので今後クリアできるような努力をしてほしい



要望

●行政が地元へ発注することについては、域内経済の循環、雇用、消防団、コミュニティ活動、災害が起きたときの復旧力にも大きく役立つ等、多面的な意義が地元業事業者にはあり、このことが公共事業のキーポイントであると言える。地元事業者への受注機会の確保、受注機会を多くの地元事業者に与えることを積極的に行ってほしい。

●公共施設等の管理に関する専門部署を設置することの意義と課題について質問しました

多くの公共施設や、道路、公園、下水道や漁港などの公共インフラについて、複数の担当課がそれぞれで管理している。現状では、技術職の配置は一部の部署に限られ、特に公共施設を管理する大多数の部署は、技術職ではない担当で業務の発注を行っている。公共施設の維持・管理については、**専門部署を設置し、技術力を高め、効率的、効果的に資産を管理していくことは、非常に有効な**ことであると考えている。引き続き検討していく。



部長



要望

専門部署を自前で持つことは、「住民の生活、住民の顔を知る力」「民間企業との交渉力」「地元事業者との信頼関係」を養うことができ、事故や災害への備えとなるので、今後も専門部署の設置の検討を進めてほしい。

学校給食に有機農産物を。



過去に議会で、養蜂に適した花の栽培や農薬の使用を抑制することなど環境保全型農業を推進する提案を行ってきたが、昨年農林水産省が進める農業戦略「**みどりの食料システム戦略**」においても、2050年までに目指す姿として「**耕地面積に占める有機農業の取組面積の割合を25%に拡大する**」「**化学農薬の使用量を50%低減する**」「**輸入原料や化石燃料を原料とした、化学肥料の使用量を30%低減する**」という目標が掲げられている。そこで、この目標達成策の一つとして**レンゲなどの緑肥作物の活用促進と有機農産物を学校給食に導入**することで、子どもたちの笑顔はもとより、農業振興、脱炭素、経済の域内循環、観光振興等の効果が期待できると考える調査研究をすることができないか。

国も具体的な数値目標を掲げており、有機農業など農業生産における環境負荷を軽減する取組みは大変重要。また、レンゲなどの緑肥作物の導入をはじめとする環境保全型農業についても、化学肥料や化学農薬の削減に役立つものと認識している。

一方で、**有機農業推進の大きな課題として、生産コストなどが膨らむことで価格が高くなる**ことが多いため、販売先の確保が難しいことが挙げられる。

学校給食への供給については、**本市の県内地場産利用率は37%程度**となっており、**県内平均32.9%と比べて地産地消が進んでいる地域**であるため、市内で栽培された有機農産物の安定的な販売先の一つになり得ると考えられる。今後、市内で有機農業に取り組んでいる農業者や学校給食など供給先となり得る関係者の意見も聴きながら**調査研究を進めたい**。



部長

●財源について事前に農業関係者ヒアリングを行ったところ、興味を持つ方は一定数いるが、コストが課題だというのが印象だった。

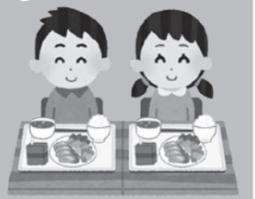
しかし、国が推進する状況で、様々な分野からの財源確保の選択肢も考えられるので調査研究の中で有利な補助メニューがあれば、予算化していただきたい。

●販売先の確保について、定期契約先として幼稚園や保育園、学校給食で、ある程度の規模売上は確保できれば将来性が担保でき新規の就農者の増加にもつながる可能性があるため、話を進めていただきたい。

●日本の食料自給率を上げることに力を入れていただきたい。



要望



渋滞を減らし安全安心な暮らしを。



富地原を通る「**県道芦田石丸線**」、赤間駅北口を通る「**都市計画道路宗像福岡線**」、宗像市を南北に通る「**県道曲須恵線**」、宗像市の大動脈である「**国道3号(宗像バイパス)**」について、今後の**県や国への要望活動、働きかけ**等について市長の考えを伺います。



↑ 県道芦田石丸線



↑ 都市計画道路宗像福岡線

県道芦田石丸線、都市計画道路宗像福岡線、県道曲須恵線、国道3号は、**本市の交通ネットワークを構成する重要な道路であり、市民生活を支えるために不可欠なライフライン**であるため、県や国に対し事業の早期着手、完成をお願いしているところ。働きかけにより、県道直方宗像線の猿田峠付近の道路整備が完成するとともに、新たな路線が事業着手されるなどの成果があった。今後も、国や県に対し、道路整備の推進に向けた働きかけをしっかりと積極的に行ってまいります。



渋滞緩和の対策のために、地元の方の声や協力があって活動が進んでいくことを前提に…

●「芦田石丸線」

富地原地区の方々から困っているとの声がある。また、ランプの手前を少し拡幅するだけでも流れはよくなるという声も聴く、地元の方との協議も含めて対策ができるのであれば検討してほしい。

●「宗像福岡線」

最近工事が進み始め、土穴地区でも期待する声を伺っている。過去に接触で転倒の事案の報告も受けるなど、通学路でもあるので早めに進めてほしい。地域の活性化協議会の方々が県土整備事務所等へ働きかけ、要望されているので市長には今後も積極的に働きかけをしてほしい。

●「県道曲須恵線」

その延長先にあるピバホームからサンリブに行く高架橋のところが混雑します。今後も継続はもちろん、さらにさらに要望活動をしてほしい。

●「国道3号バイパス」

車線を増やす工事については、今後、国とのパイプも有効にお願いしながら進めてほしい。また、県議とも連携しながら、この3号線の渋滞対策を積極的に進めてほしい。



宗像市民97,000人の安全な暮らしのために、渋滞緩和のために、市長にしかできないことがあると思ったので、市長にお願いをするために質問に取り上げました。渋滞は毎日と言っていいほど、どこかで発生しています。道路整備事業は行政にしかできない事業ですので、今後も市長に積極的に働きかけをしてもらえるようお願いしてまいります。



音楽のあふれるまちに。



世界遺産登録を記念して作成された「**神宿る島**」や宗像市観光大使が歌う楽曲等、**宗像市にゆかりのある音源について**、庁舎ロビーや公共施設、市内商業施設や駅などのBGMに起用したり、電話保留音に使用したりするなど、**広く活用**することを検討できないでしょうか。

音楽の活用にあたっては、著作権の問題等を整理する課題等はございますが、音楽を活かしたまちづくり、まちのPRという観点から、調査研究を行ってまいります。



むなかた第九合唱団という団体が、東海大学福岡高校の吹奏楽部と連携して、この沖ノ島世界遺産記念の「**神宿る島**」を収録して、市内の中学校に配付している。この活動を応援するだけでも、私は一定の協力効果はあると考える。

その他の音源についても調査研究してもらって、様々な場面で市民の皆さんに宗像にちなんだ音源に触れる機会をつくっていただきたい。



?あの提案はどうなった?

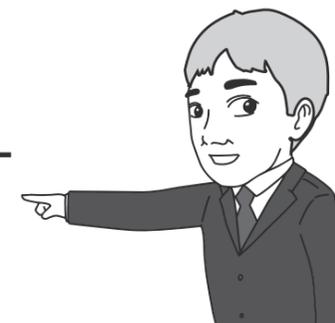
提案実現!!

令和3年12月議会でゼロカーボンシティ宣言とともに専門部署の設置を提案していました。

令和4年度より**環境課脱炭素社会推進室が設置され脱炭素社会の実現に向けた取り組みが推進**されることになりました。

一歩前進!!

これまで、田久交差点付近の冠水や釣川の河川整備、流域治水、防災ため池の事など、水災害対策について議会で取り上げてまいりましたが、令和4年度より**都市計画課雨水管理まちづくり係が設置され、中長期にわたる雨水、浸水対策を進めてもらえる事**になりましたので、より精密な調査分析がなされることを期待しています。



あべ よしひで 安部 芳英



1970年宗像に生まれ、宗像で育つ。2児の父。
学歴：赤間小学校 → 城山中学校 → 香椎工業高(情報科) → 福岡建設専門学校

宗像市議会議員

- 宗像大社氏子青年会 監事
- 遠賀・宗像食品衛生協会相談役
- (公社)福岡県建築士会防災部会副会長兼宗像地域会副代表
- 婚活まちづくり団体ゆめみらいNIPPON元代表
- 青少年育成活動 宗像少年の翼前会長
- 城山中学校PTA会長(2018)
- アドベンチャーMUNAKATA2020実行委員会顧問

これまで関わってきた祭りイベント

- 赤間駅前カムカム祭り実行委員会
- 夢灯笼祭り実行委員会
- ゆめタウン宗像夏祭り実行委員会
- 宗像まちづくり映画上映実行委員会



Website



Facebook



YouTube



Instagram



twitter



安部よしひでの最新情報を各SNSにて発信しています。